

水稻の生育状況（6月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2026年6月25日

1 生育状況

6月25日現在の水稻の生育状況は、平年値*と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況（6月25日現在）

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬	平年並み	少ない	平年並み
	6月中旬	－	－	－
にじのきらめき	6月上旬	低い	少ない	やや薄い
	6月中旬	－	－	－
てんこもり	6月上旬	やや低い	少ない	やや薄い
	6月中旬	－	－	－

* ‘はるみ’ 2016～2025年までの過去10年平均 ‘にじのきらめき’ 2025年の値
‘てんこもり’ 2018～2025年までの過去8年平均 との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が6月25日に発表した1か月予報（6月27日～7月26日）では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並み」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

（1）水稻の生育状況

6月25日現在の水稻の生育状況は、平年と比較して草丈がやや低い、茎数が少ない、葉色が平年並みでした。

（2）中干し

中干しは、田植え後1か月程度を目安に開始し、5～7日程度水を切ります。強い中干しは避け、田面に軽いひび割れができる程度に留めましょう。

幼穂形成始期以降の水不足（出穂25日前頃～）は、玄米外観品質や収量の低下に繋がります。出穂期の25日前までには中干しを終え、入水出来るようにしてください。

※ 出穂期の目安は表2を参照

（3）病虫害雑草対策

雑草は作物と光や養水分で競合する他に、病虫害の温床となります。

斑点米カメムシ類の住処（イネ科雑草、イヌホタルイなど）や紋枯病等の発生しやすい環境（感染源など）となります。中・後期除草剤の使用時期、使用方法、対象雑草や効果のある生育ステージをしっかりと確認し、雑草対策を行いましょう。



ノビエ



イヌホタルイ

（４）特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の対策

南米原産の多年生雑草で、相模川水系におけるほとんどの市町の水田で侵入を確認しています。定着すると根絶が困難で水稻に被害をもたらすため、早期発見・防除が重要です。

水田に疑わしい雑草が見られた際は、最寄りの JA または農業技術センターにご連絡ください。

対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。



ナガエツルノゲイトウ

（５）農作業安全

農作業中の熱中症による死亡者は特に７～８月に集中しており、70 代以上の高齢者が大多数を占めています。一方で、熱中症による救急搬送人員数は、5 月頃から発生し、初秋までにわたり多くなっており、真夏以外の期間にも注意が必要です。

高温下での長時間作業を避け、「こまめな休憩と水分・塩分補給」を行い、「絶対に無理をしない、頑張りすぎない」ことが大切です。

農作業を行う際はなるべく２人以上で作業し、時間を決めて声を掛け合ったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

暑熱順化：体が暑さになれること。気温が高くなる前の時期から余裕をもって 暑熱順化のための活動を始め、暑さに備えましょう。

プレクーリング：農作業中の体温上昇を抑制する対策として 作業を始める直前に身体を冷やすと効果があるといわれています。

（６）台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。

事前防止対策：

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。
定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちようや倒伏防止に備えます。

事後対策：

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の「令和 8 年度病害虫発生予察情報」に注意します。

【参考】

表2 神奈川県農業技術センター（平塚市）における平年値*

作期	品種名	中干し時期	畦畔除草	出穂期
6 月 上 旬 植	はるみ	7月7日～12日頃	7月23日～7月27日頃	8月9日
	にじのきらめき	7月6日～11日頃	7月22日～7月26日頃	2025年の出穂日 8月5日
	てんこもり	7月11日～16日頃	7月27日～7月31日頃	8月14日
6 月 中 旬 植	はるみ	7月13日～18日頃	7月29日～8月2日頃	8月15日
	にじのきらめき	7月13日～18日頃	7月29日～8月2日頃	2025年の出穂日 8月12日
	てんこもり	7月16日～21日頃	8月1日～8月5日頃	8月18日

* ‘はるみ’ 2016～2025年までの過去10年平均 ‘にじのきらめき’ 2025年の値

‘てんこもり’ 2018～2025年までの過去8年平均

幼穂形成期以降の水不足（出穂期25日前頃～）は、玄米外観品質や収量の低下に繋がります。

No.	参照内容		QRコード
1	病虫害防除対策	農業技術センター病虫害防除部 「令和8年度病虫害発生予察情報」	
2	農薬に関する情報	神奈川県 HP 「農薬に関する情報」	
3	ナガエツルノゲイトウ	農研機構 HP 「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マ ニュアル」	
4	台風対策	神奈川県 HP 「農業気象災害の技術対策」	

問合せ先

神奈川県農業技術センター

普及指導部 作物加工課

T E L : 0463-58-0333 内線381～384